

新古今物語

第53話

古堤街道を往く⑬ 「住道本通商店街」 「街道の辻に栄えた商店街」

住道駅前デッキから地上に降り、恩智川の護岸堤防に沿って東に歩いて行くと、サンメイツ1番館の東側に住道本通商店街が見えてきます。この商店街の通りが、かつての古堤街道のルートでした。商店街の前身は「住道商店街」と言い、現在の住道郵便局付近（府道八尾枚方線東側）から東西に80メートルほど伸び、100以上の店舗が軒を並べる繁華街でした。昭和50年代の住道駅付近立体交差化事業によって多くの店が撤退し、一部の店は新しくできた大東サンメイツに入りました。



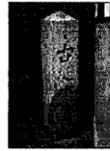
現在の住道本通商店街

方面を結ぶ河内街道は、道標の北側にある竹橋を渡ると四條畷方面に通じます。明治35年（1902）に建てられた道標は、現在全体の3分の1ほどが地中に埋まっているため全ての文字を読むことはできませんが、「距高麗」「距大和國界」「距国道第二號路線分岐」などとあり、大阪の高麗橋や奈良県境、国道2号線との分岐からの距離を示しています。



昭和30年代ごろの住道商店街

商店街を抜け、東に40メートルほど行くと、恩智川に架かる三箇大橋があります。橋梁の桁下が洪水時に想定される計画高水位より低く危険なため、橋の架け替え（平成30年完成予定）に向けた工事が現在進められています。さらに100メートルほど進み、JRの高架下をくぐると、御供田地区に入ります。（生涯学習課）



住道本通商店街に立つ道標

新古今物語

第54話

古堤街道を往く⑭ 「御供田地区に残る河川の跡」

前回紹介した三箇大橋を通る道は、緩やかなカーブを描きながら南下し主要地方道大阪生駒線（阪奈道路下り線）まで通じています。かつてこの道は、現在の近鉄河内花園駅（現・東大阪市）付近で玉串川から分岐し、深野池に流れ込んでいた吉田川の川筋でした。現在は、この道を挟んで西側が川中新町、東側が御供田地区となっています。

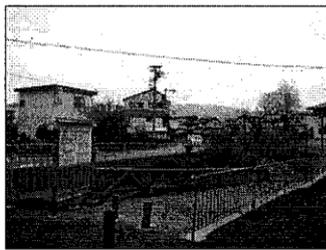


吉田川跡を通る道路
(コミュニティバス御供田西停留所付近)

できた川中新田の一部です。ちなみに、堺屋太一の時代小説「峠き加減の男の肖像」では、主人公が御供田村を拠点に深野池の開発を指導する様子が描かれています。

さて、三箇大橋から恩智川堤防に沿って100メートルほど東へ行き、JRの高架下をくぐると、再びカーブを描いた道が現れます。この道は、昭和40年代に付け替えられるまで恩智川が流れていた場所です。この道の歩道側がかつての古堤街道で、現在は桜見物など市民の憩いの場として利用されていますが、降雨時には雨水貯留池として水の防止に貢献しています。

歩道歩いて行くと、間もなく右手に御供田地区の氏神・八幡神社の社殿が見えてきます。境内の南側には近世以来の旧家などが並ぶ歴史的町並みが残されていますが、これらの旧跡は次回ご紹介します。（生涯学習課）



恩智川跡の道路と雨水貯留施設